

2026年度 第1四半期 決算説明資料



2026年8月3日

株式会社三井E&S



※ 世界経済の先行きに不確実性があるものの、
受注高・売上高・営業利益が全て前年同期比で増加し、順調なスタート

2026年度 第1四半期 決算概要

◆ 受注高	1,050 億円	(前年同期比 )
◆ 売上高	917 億円	(前年同期比 )
◆ 営業利益	102 億円	(前年同期比 )

2026年度 見通し

◆ 受注高	3,700 億円	(前回発表見通し比 )
◆ 売上高	3,700 億円	(前回発表見通し比 )
◆ 営業利益	340 億円	(前回発表見通し比 )

トピックス

- ◆ 中南米向け環境対応型ヤード用コンテナクレーン受注
- ◆ 国内初となるWinGD型メタノール焚き二元燃料エンジン完成

2026年度 第1四半期 決算概要

- ※ ・受注高は、良好な事業環境を背景に増加
・売上損益は、豊富な手持ち工事が着実に進捗したことから増収増益

(単位：億円)

	25年度1Q	26年度1Q	増減
受注高	888	1,050	+162
売上高	812	917	+106
営業利益	89	102	+13
営業利益率	11.0%	11.1%	-
経常利益	101	117	+15
経常利益率	12.5%	12.7%	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	72	82	+9

<売上平均レート>

	25年度1Q	26年度1Q
USドル	146.21円	155.63円

2026年度 第1四半期 セグメント別決算概要

- ※ ・受注高は、船用推進システム部門の着実な案件の積み上げにより増加
 ・売上高は、各部門で予定通りの工事進捗により拡大
 ・営業利益は、成長事業推進部門の堅調な推移により増加

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	25年度 1Q	26年度 1Q	増減	25年度 1Q	26年度 1Q	増減	25年度 1Q	26年度 1Q	増減
成長事業推進	92	100	+8	81	115	+34	10	21	+10
船用推進システム	413	671	+258	380	406	+26	41	38	△3
物流システム	209	114	△96	159	172	+13	29	31	+1
周辺サービス	173	164	△9	191	224	+33	9	16	+7
その他	1	0	△0	0	0	△0	0	△4	△3
合計	888	1,050	+162	812	917	+106	89	102	+13

※ 前年度に売掛金回収が進んでいたことから、
今年度第1四半期の営業キャッシュフローは若干のマイナス

(単位：億円)

	25年度 1Q	26年度 1Q	増減	
営業CF	145	△14	△159	25年度1Qは、クレーンの売掛金回収や、船用エンジンの受注に伴う前受金の増加などにより黒字であったが、 26年度1Qは、25年度に売掛金の回収が進んでいたことから若干のマイナス
投資CF	55	△9	△63	26年度1Qは、主にアンモニア供給設備増強等の設備投資
フリーCF	200	△22	△222	
財務CF	△31	△168	△137	26年度1Qは、主に有利子負債の返済と配当金支払による支出

※ 中東情勢リスクが、当初想定の範囲内で推移していることを踏まえ、
今後の影響について精査した結果、営業利益を上方修正

(単位：億円)

	前回見通し 2026/5/14	今回見通し 2026/8/3	増減
受注高	3,700	3,700	0
売上高	3,700	3,700	0
営業利益	320	340	+ 20
経常利益	370	390	+ 20
親会社株主に帰属する 当期純利益	300	310	+ 10
フリーCF	60	80	+ 20
有利子負債	950	950	0

※ 前提為替レート US \$ = 158円

※ USドル1円の為替変動が営業利益に与える影響はほぼありません

2026年度 セグメント別業績通期見通し

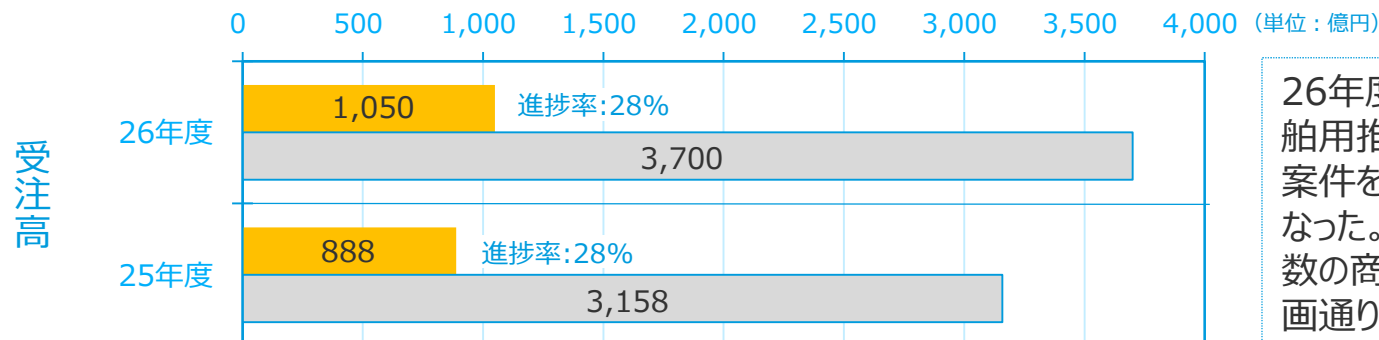
※ 中東情勢の悪化による調達リスクおよびコスト上昇リスクを精査した結果、
物流システム部門において改善が見込まれることから、営業利益を上方修正

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	前回見通し 2026/5/14	今回見通し 2026/8/3	増減	前回見通し 2026/5/14	今回見通し 2026/8/3	増減	前回見通し 2026/5/14	今回見通し 2026/8/3	増減
成長事業推進	450	450	0	450	450	0	80	80	0
船用推進システム	1,700	1,700	0	1,600	1,600	0	120	120	0
物流システム	650	650	0	700	700	0	80	100	+20
周辺サービス	900	900	0	950	950	0	40	40	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,700	3,700	0	3,700	3,700	0	320	340	+20

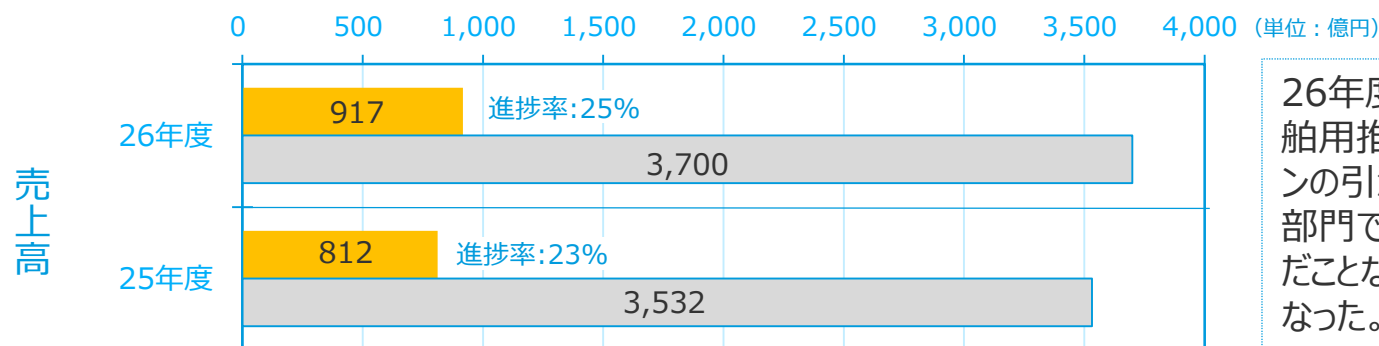
2026年度 第1四半期 進捗状況

※ 受注高・売上高は概ね計画通りに進捗、営業利益は、採算の良い案件の売上が第1四半期に計上されたことにより、高い進捗率を計上



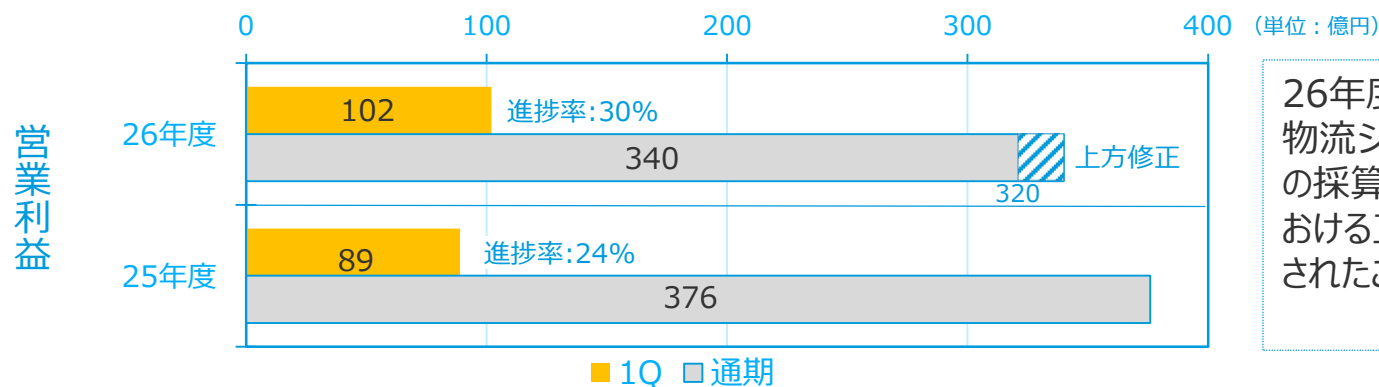
26年度 1Q:

船用推進システム部門は、25年度からの期ズレ案件を予定通り受注することで、好調な滑り出しとなった。物流システム部門の進捗は低いものの、多数の商談案件を抱えている。全体としては概ね計画通りの進捗となった。



26年度 1Q:

船用推進システム部門において、二元燃料エンジンの引渡しが順調に推移したことや、物流システム部門で、海外向け大型案件の進捗が着実に進んだことなどにより、全体的に概ね計画通りの進捗となった。



26年度 1Q:

物流システム部門における海外向け大型案件等の採算の良い案件の売上や、周辺サービス部門における工事採算の良い案件の売上が、1Qに計上されたことにより、全体として高い進捗率となった。

※市場が拡大する中南米アルゼンチン向けに ヤード用コンテナクレーン5基を受注

客先：Exolgan S.A.(以下Exolgan)

- ・アルゼンチンのブエノスアイレス近郊に位置するDock Sud港にて、
主要なコンテナターミナルを運営
- ・ブエノスアイレス港湾エリア全体のコンテナ貨物の約40%を取り扱う
- ・脱炭素化にも取り組む

製品：環境対応型

- ・南米で初となるニアゼロエミッション型
- ・従来のディーゼルエンジン型と比べ、CO2排出量を最大70%削減可能



※中南米における実績

中南米向け	稼働済	直近受注	合計
岸壁用コンテナクレーン	6基	—	6基
ヤード用コンテナクレーン	48基	5基	53基
合計	54基	5基	59基

高い環境性能と品質を兼ね備えた製品の提供を通じて
北米を起点とする事業拡大を加速

※ 国内初となるWinGD型メタノール焚き二元燃料エンジン陸上試験完了 玉野工場製造 WinGD型エンジン初号機完成

＜成果＞

- ・グループ会社である三井E&S DUが、WinGD型大型船用エンジンとして国内初のメタノール焚き二元燃料エンジンとなる「DU - WinGD 6X82DF-M-1.0 LP-SCR」の陸上試験を完了
- ・本エンジンは、三井E&S玉野工場において製造された初のWinGD型大型船用エンジン

＜背景＞

- ・政府が掲げる「造船業再生ロードマップ」のもと船用エンジンの需要増加が見込まれる
- ・三井E&S玉野工場と三井E&S DU相生工場の一体運営による大型船用エンジンの生産効率向上に取り組んでいる

＜三井E&Sグループとしての強み＞

- ・三井E&Sグループと、世界を代表するライセンサーであるEverllence及びWinGDとの長年にわたる信頼関係
- ・三井E&S玉野工場が有する多様な次世代燃料供給設備
- ・三井E&Sグループが有する国内最大の大型船用エンジン生産能力



三井E&Sグループの船用エンジン生産体制が新たなステージへ進展したことを示す重要な一歩

※ 売上高の大幅な増加が全社業績の伸張を牽引

(単位：億円)

科目	25年度 1Q	26年度 1Q	増減	
売上高	812	917	+106	豊富な手持ち工事が着実に進捗
売上総利益	161	186	+25	売上の拡大に伴う増加
販売費及び一般管理費	72	85	+12	
営業利益	89	102	+13	
営業外収益	21	23	+2	
営業外費用	8	8	+0	
経常利益	101	117	+15	
特別利益	3	1	△2	
特別損失	1	0	△0	
税金等調整前四半期純利益	104	117	+13	
法人税等	32	35	+3	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	1	+1	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	72	82	+9	

※ 利益の積み上げにより、自己資本比率が向上

(単位：億円)

	25年度	26年度1Q	増減	
資産合計	4,946	4,643	△303	
(現金及び預金)	571	383	△188	主に有利子負債の返済による減少
(受取手形、売掛金及び契約資産等)	953	960	+7	
(棚卸資産)	779	773	△5	
(有形・無形固定資産)	1,220	1,213	△8	
(投資有価証券)	550	413	△137	主に株価下落に伴う減少
負債合計	2,607	2,356	△251	
(支払手形及び買掛金等)	515	488	△27	
(契約負債)	429	470	+41	主に船用エンジンの受注に伴う前受金の増加
(有利子負債)	927	805	△122	主に短期借入金の返済による減少
うち短期借入金	553	432	△121	
うち長期借入金	374	374	△1	
純資産合計	2,338	2,286	△52	
(株主資本)	1,501	1,543	+41	当期純利益による増加
(自己資本)	2,291	2,239	△52	主に株価下落に伴う評価差額金の減少と利益剰余金の増加
(自己資本比率)	46.3%	48.2%	-	
運転資本 (*)	712	769	+57	
D/Eレシオ	0.4倍	0.4倍	-	

(*1) 運転資本 = 売上債権 (除く前受金) + 棚卸資産 - 仕入債務

※ リードタイム短縮を図ることで、26年度生産見通しが増加

	25年度 1Q		26年度 1Q		26年度 見通し	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注高	37	73	69	131	—	—
売上高	36	80	37	76	—	—
受注残高	155	410	160	398	—	—
生産実績	35	75	33	70	138	292



MITSUMI E&S

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性があります。